

○平成二十七年 度

一 学年 校外 学習

駒姫と婚約者共に葬られ父義光の怒りは知れず
バスの中來るときよりも静かだが心は充実気持ちは満足
城跡の美術館で僕暇人良さがわからぬまだまだ子供
山形の木々が絶景バスの中友と食べ合う菓子も絶品
美術館きれいな顔の人物画走ってみると変顔になる
土粘土愛情込め型作りろくろの上で命吹き込む
山形の木漏れ日浴びてお弁当木の葉がゆらり桜がひらり
思い出を形にしようと心こめみんなで作った平清水焼
仁王門風まう葉っぱとんでいき悪の心をとばしてく
山寺の無数の階段のぼる先待つは頂至高の景色
山寺や青と緑の境界線友と見上げる我らの地球
五月晴れ山寺登りみわたせば汗に輝くフレンズスマイル
千段の石段友と踏みしめて見た新緑はスタートの色
群青の空の下にて汗をかき友と踏ん張る千十五段
階段は絶対嫌だ一人ではだけど友とは心がおどる
初夏の風千の階段乗り越えど広き空は遙か彼方に
粘土からいろんな形生まれてく個性あふれる作品たちだ
山形の歴史を学ぶ公園に昔をしのぶ石がきのあと
山寺の神祕の石段駆けめぐり煩惱と共に汗がながれる
千年の歴史を悟る石段をふみしめていこう一段一段
昔より語りつがれし伝統を守り続ける平清水焼
山形の最上義光輝いて勇姿あふれる男の武將
修行の場貫く山に寺があり今この時も変わらず残る
雄大な山にとけこむ山寺のあまたのお堂さぞ美しや

二 学年 野外 活動

語り部の話を聞いてよみがえる未来につなぐあの日の記憶
船に乗り荒れ来る波を切り裂いて山背体にしみつくように
こんにはちは優しさ溢れたお出迎え心にしみた人の温もり
災害は忘れてならぬいつまでも未来にたくす希望の言葉
暑さ耐え陽炎ゆれる炭作り焼けた木の実黒い宝石
悲しみを乗り越えた先幸せがあると信じて前へ進もう

対決だみんなを落とせ池の中ずぶぬれのまままた始めよう
炭を焼き燃えさかる火に焼きつく目消えゆく炎と高鳴る心
沢登り水が冷たく声あげのお茶でひと息友と語らう
風香り緑が体を包み込み鳥のように宙に舞うなり
飛び込んだ木漏れ日の差す川底に泡の小雨が水上で舞う
体験で力をこめてこれからの不安とまきを斧でかち割る
洞窟で無数の光輝いてきれいなしずく曲を奏でる
琥珀掘りにしえの時に少し触れ透かして見える宝の光
温かい鍋と笑顔と優しさに帰るときには思わず涙
大海の砂一粒を拾うよう小さな小さな僕らの力
春の海冷たい風が岸に吹く空と海とが青く輝く
木漏れ日ゆらす葉音もかきけしてきらめきさわぐ岩洗う沢

三学年修学旅行

紅（くれない）の大提灯に人集い雷神様の顔もほころぶ
七色の鉄橋渡るゆりかもめ都会の空を飛ばたいていく
風浴びて思い出すのは隅田川記憶に残る潮の香りよ
浅草の情緒が宿る町並みに笑顔を照らす提灯よ
僕の手でしまらぬチャックあけたまま万億兆の思い出あふれる
雷門くぐればそこは江戸の町吸い込む空気歴史の香り
明星もかすみゆくよな時過ごし長き旅をも刹那と思う
荷降ろして目を閉じ映る夢の国碧き夜空に光の乱舞
夏空の空をかけ吹く海風は2020の東京五輪へ
台風とともに過ぎ去る雨予報空も心も快晴になる
壮大な木々立ち並ぶ夢の島一步入ればそこはジャングル
鮮やかな記憶の中の一ページ心に残る修学旅行
誰しもが子どもにかえる夢の国時間忘れる魔法の世界
夢の国60秒の景色たち恋しい時間瞬く過ぎる
土産よし夢の国へと背を向けた写る情景わが脳裏にて
時忘れ過ごす友との写真には無邪気に笑う十五の心
赤い門時空間を超えてまでなごむ笑顔で皆をもてなす
ただ一つ命の光鮪の目めげぬ姿に勇気をもろう